

タケダ機械(6150) 20/5Q1 決算メモ アウトパフォーム継続

建設業の恒常的人不足と高層ビル建設、国土強靱化、万博、総合リゾート等で最高益更新

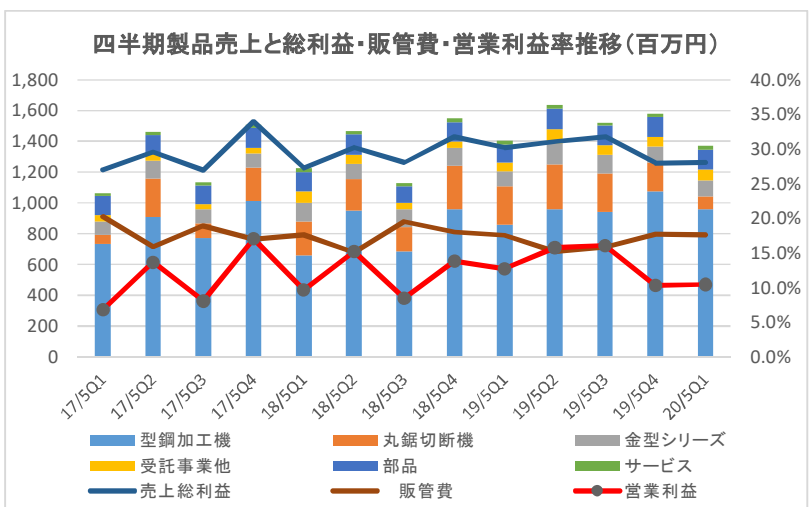
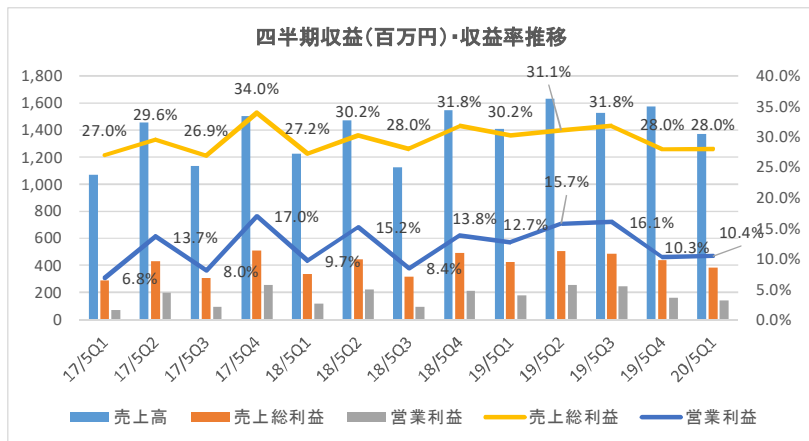
株価 2618 円 (10/11) 時価総額 26.7 億円 (10/11) 発行済株 1020 千株 (10/11)
 PER (DO20/5 予 : 3.9X) PBR (0.66X) 配当 (20/5DO 予) 80 円 配当利回り : 3.0%
 要約

- ・ 20/5Q1 は 2.4%減収 20.0%営業減益と自社事業増収もアマダ向け OEM 停止影響で減収に
- ・ 20/5 期はアマダ向け減少見通しから 7.2%減収ながら 0.5%営業増益予想も上乗せ期待
- ・ 21/5 期は建設現場の自動化需要に加え、国土強靱化事業、万博需要などで利益更新続く
- ・ 株価は 20/5 期 DO 予想 EPS696 円に対し中小型工作機械平均 PER7 倍の 4870 円目標

20/5Q1 は 2.4%減収 20.0%営業減益と自社事業増収もアマダ向け OEM 停止影響で減収に

20/5Q1 決算が 10/11
 に開示された。20/5Q1
 は売上高 13.72 億円
 (2.4%減)、営業利益
 1.42 億円 (20.0%減)、
 経常利益 1.46 億円
 (21.4%減)、税引利益
 0.9 億円 (31.6%減) に
 止まった。

部門別売上では好調
 の続く形鋼加工機が好
 調を維持し 9.59 億円
 (11.7%増)、金型も
 1.04 億円 (11.5%増)、
 受託事業他 0.71 億円
 (15.6%増)、部品 1.03
 億円 (10.9%増) 等と 2
 ケタの伸びを示したも
 のの、角パイプ材型鋼切
 断を中心とする丸鋸切
 断機はアマダ向け OEM



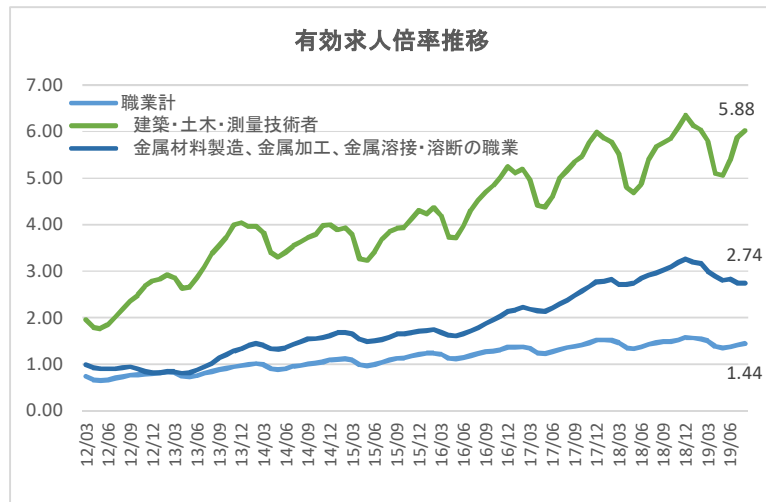
製品供給停止を 6 月から実施した影響もあり 0.83 億円 (67.0%減) と大幅減となり、全体で減収減益を余儀なくされた。

20/5 期はアマダ向け減少見通しから 7.2%減収ながら 0.5%営業増益予想も上乗せ期待

20/5 期会社予想の売上高 57 億円 (7.2%減)、営業利益 8.5 億円 (0.5%増)、経常利益 8.65 億円 (0.5%増)、税引利益 5.8 億円 (9.4%減) は変更なし。元々アマダマシンツールとの提携関係縮小 (アマダブランドで販売の海外向け OEM 供給等を一部停止) を織り込み、上、下期とも変更なし。減収ながら自社製品比率向上と高付加価値製品増による MIX 改善で 6 期連続経常最高益更新予想としている。

現状、建設業界において、オリンピック特需は一巡も、建設業の有効求人倍率は他業界を大きく上回り、2019 年 8 月でも 5.88 と依然人出不足が慢性化、また技能者不足や外国人労働者雇用などの要素も加わり、省人化、自動化ニーズは高い。

国内の鉄骨需要はポスト東京オリンピックとして都市再開発、インバウンド需要、E コマ



ース、インフラ整備、超高層マンションなどがあり、鉄骨需要は堅調な推移が続く見通し。このため鉄骨加工を担うファブリーケーターは高い稼働率を維持し、働き手が減る中で能力増のための省力化・効率化設備投資意欲は依然として強く、需要拡大が続く見通し。

切断機についてはアマダ向け契約減を、自動車部品などの加工に使う「丸のこ切断機」で加工スピードを上げた自社ブランド品を新興国仕様機

として投入し一部をカバーできると判断、下期は災害対策としての鋼材加工需要も加わる見通しで、会社予想を上回る収益が見込める。

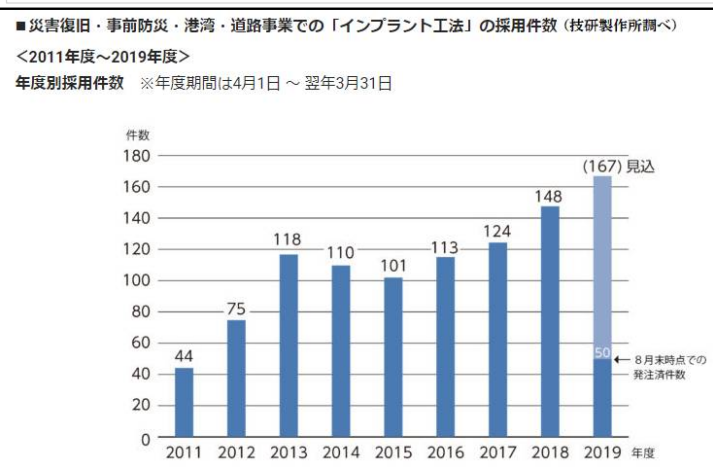
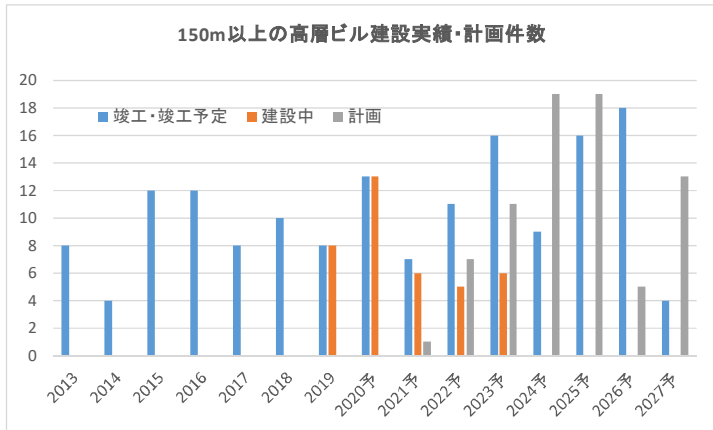


21/5 期は建設現場の自動化需要に加え、国土強靱化事業、万博需要などで利益更新続く

オリンピック後も都市再開発、インバウンド需要、E コマース、インフラ整備、超高層マンションなどがあり、澁谷再開発や 2024 年の「虎ノ門・麻布台プロジェクト (330mビル等事業費 5800 億円)、2027 年には 390m (61F 建て) の三菱地所常盤橋プロジェクトなど、巨大プロジェクトでは 10 万トン規模の鋼材需要が見込める。さらに IR 推進法に沿って、

年内にも IR を設置する自治体 3 つが決まる方向にあり総合リゾート建設需要が確保され、大阪万博も建設の具体化が進む見通し。その後リニア新幹線工事など継続的な大型建築物需要から形鋼加工機は切れ目ない大型プロジェクトの継続で堅調な受注環境が見込まれる。

加えて昨今の自然災害の大型化、襲来の頻度増が懸念され、国土強靱化対策も基準変更によりインプラント工法（鋼矢板や鋼管杭などの既成杭を地中に押し込み強度補強する工法）などで新たな鋼構造物の需要拡大も見込まれる。このため、慢性的な労働力不足が続く中で、同社の省人化、複合化、自動化された形鋼加工機、丸鋸切断機は堅調な需要拡大から最高益更新が続こう。



防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策進捗状況一覧 ※国土強靱化年次計画 2019

分野	対象インフラ	緊急対策名	令和元年度までの実施概要	令和元年度までの実施箇所数 ※実施済みの箇所数を把握しており、実施の箇所数は今後増加する。
河川	堤防	全国の河川における堤防決壊時の危険性に関する緊急対策	平成30年7月豪雨を踏まえ、バックウォーター現象等により氾濫した場合の湛水深等の緊急点検を行い、甚大な人命被害等が生じる恐れのある区間を有する河川について、合流部等の堤防強化対策や堤防かさ上げ等の緊急対策を実施する。	<堤防強化対策等> ①国:65河川 ②都道府県等:45河川
河川	河道等	全国の河川における洪水時の危険性に関する緊急対策(河道等)	平成30年7月豪雨を踏まえ、樹木繁茂・土砂堆積及び橋梁等による洪水氾濫の危険箇所等の緊急点検を行い、流下阻害や局所洗掘等によって、洪水氾濫による著しい被害が生ずる等の河川について、樹木伐採・掘削及び橋梁架替等の緊急対策を実施する。	<樹木伐採・掘削等> ①国:135河川 ②都道府県等:2,101河川
河川	堤防	全国の河川における洪水時の危険性に関する緊急対策(堤防)	平成30年7月豪雨を踏まえ、河川の氾濫の危険性や避難の困難度等の緊急点検を行い、洪水氾濫した場合に逃げ遅れの危険性が高い河川について、越水による決壊までの時間を引き延ばす対策等の緊急対策を実施する。	<危機管理型ハード対策等> ①国:20河川 ②都道府県等:119河川
河川	ダム	全国の河川における洪水時の危険性に関する緊急対策(ダム)	平成30年7月豪雨を踏まえ、大雨が甚大かつ長時間継続した場合を念頭に、ダムの洪水調節機能について緊急点検を行ったところ、緊急的・集中的にダムの洪水調節機能を維持・確保するうえで、土砂流入対策が必要となるダム、操作改善のために改良が必要なダム、ダムの操作規則の改善のために下流の改修が必要なダムについて、ダムの洪水調節機能を維持・確保するための緊急対策を実施する。	①国:20ダム ②県:15ダム <調査研究等> 1件
河川	河道等	中小河川緊急治水対策プロジェクト(再度の氾濫防止対策)	九州北部豪雨等の豪雨災害による中小河川の氾濫など、近年の豪雨災害の特徴を踏まえて、全国の中小河川で点検を行った結果、近年、洪水により被災した履歴があり、再度の氾濫により多数の家屋や重要な施設(要配慮者利用施設・市役所・役場等)の浸水被害が想定される区間において対策が必要であることが判明したため、多数の家屋や重要な施設の浸水被害を解消するための河道の掘削等を実施する。	<再度の氾濫防止対策> 都道府県等:179河川

株価は20/5期DO予想EPS696円に対し中小型工作機械平均PER7倍の4870円目標

株価は連続最高益更新銘柄ながら20/5期予想が減収の業績予想を嫌気し4月の年初来高値3160円に対し、9/2には2456円まで下落した後、現在は2500円～2600円で推している。現状、20/5期会社予想EPS630.48円に対しPERは4.15倍に過ぎず、6期連増経常最高益更新予想で内需刺激策関連銘柄として時価総額が小さいものの、非常に割安な水準と判断される。同社は下期控え目な予想で会社予想を上回る業績が期待され、今後、災害対策の新たな政策提言も期待され、20/5期DO予想EPS695.8円に対し、中小型工作機械平均PER7倍水準にあたる4800円を目標値としてアウトパフォーム継続とする。

タケダ機械(8150)	(百万円、円)									
	売上高	増減率	営業利益	増減率	経常利益	増減率	税引利益	増減率	EPS	配当
18/5期	5,374	4.0%	651	5.2%	662	6.1%	452	3.6%	490.8	60.00
19/5Q1	1,406	14.5%	178	50.5%	186	54.1%	141	81.0%	154.2	0.00
19/5Q2	1,633	11.1%	258	15.5%	262	15.4%	177	17.7%	191.7	0.00
19/5Q3	1,526	35.5%	245	157.8%	247	161.1%	208	251.4%	225.3	0.00
19/5Q4	1,576	1.7%	162	-24.3%	166	-24.2%	114	-30.5%	124.7	80.00
19/5H1	3,039	12.6%	436	27.6%	448	28.8%	318	39.1%	345.88	0.00
19/5H2	3,102	16.0%	407	31.7%	413	31.7%	322	44.3%	350.0	80.00
19/5期	6,141	14.3%	843	29.5%	861	30.1%	640	41.7%	695.9	80.00
20/5Q1	1,372	-2.4%	142	-20.0%	146	-21.4%	90	-36.1%	98.5	0.00
20/5Q2会予(10/11)	1,578	-3.4%	318	23.3%	324	23.7%	230	29.9%	249.4	0.00
20/5H1会予	2,950	-3.0%	460	5.4%	470	4.8%	320	0.6%	347.9	0.00
20/5H2会予	2,750	-11.3%	390	-4.2%	395	-4.4%	260	-19.3%	282.6	80.00
20/5期会予	5,700	-7.2%	850	0.8%	865	0.5%	580	-9.4%	630.5	80.00
20/5H1DO予	2,950	-3.0%	460	5.4%	470	4.8%	320	0.6%	347.8	0.00
20/5H2DO予	2,950	-4.9%	460	13.0%	465	12.6%	320	-0.6%	347.8	80.00
20/5期DO予	5,900	-3.9%	920	9.1%	935	8.6%	640	0.0%	695.6	80.00
21/5期DO予	6,500	10.2%	1,030	12.0%	1,050	12.3%	710	10.9%	771.7	90.00

セグメント売上情報年度	16/5期	17/5期	18/5期	19/5期	20/5期 会予	20/5期 DO予	21/5期 DO予
型鋼加工機	3,175	3,425	3,248	3,831	4,050	4,190	4,500
丸鋸切断機	635	620	868	983	450	500	740
金型シリーズ	368	388	452	455	426	430	450
受託事業他	169	162	220	276	210	210	220
部品	449	492	497	508	468	470	480
サービス	72	81	86	86	96	100	110
合計	4,872	5,167	5,374	6,141	5,700	5,900	6,500

年度	16/5期	17/5期	18/5期	19/5期	20/5期 会予	20/5期 DO予	21/5期 DO予
売上高	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
売上原価	69.8%	70.3%	70.5%	69.7%	67.5%	67.3%	67.2%
売上総利益	30.2%	29.7%	29.5%	30.3%	32.5%	32.7%	32.8%
販管費	18.3%	17.8%	17.4%	16.5%	17.5%	17.1%	16.9%
営業利益	11.9%	12.0%	12.1%	13.7%	14.9%	15.6%	15.8%
経常利益	12.0%	12.1%	12.3%	14.0%	15.2%	15.8%	16.2%
親株主帰属純利益	8.1%	8.4%	8.4%	10.4%	10.2%	10.8%	10.9%

TAKEDA MACHINERY CO.,LTD.

2019/10/11

